



入国者数制限が撤廃されると、観光地には外国人観光客が次々と訪れた（写真は東京・浅草）（写真=ロイター/アフロ）

既に観光客の「次」を狙う動きも出ている。不動産運用会社、プロフィッツ（東京・千代田）は2023年2月、長期滞在する訪日客や欧米大手企業の社員などを狙ったアパートメントスタイルホテルを東京・浜松町に開業。長期滞在型のラグジュアリーホテルが都内には少ないと見てのことだ。「所得の高い訪日客のライフスタイルもコロナ禍で変化した。新たな需要を捉える」（玉真永棋・プロフィッツ取締役投資責任者）と意気込む。



対コロナ戦



阪急百貨店うめだ本店ではブランド品売り場などに外国人観光客が訪れ、にぎわいが戻り出した

既に観光客の「次」を狙う動きも出ている。不動産運用会社、プロフィッツ(東京・千代田)は2023年2月、長期滞在する訪日客や欧米大手企業の社員などを狙ったアパートメントスタイルホテルを東京・浜松町に開

業。長期滞在型のラグジュアリーホテルが都内には少ないと見てのことだ。「所得の高い訪日客のライフスタイルもコロナ禍で変化した。新たな需要を捉える」(玉真永棋・プロフィッツ取締役投資責任者)と意気込む。

コロナ禍前の19年の訪日外国人旅行者は約3188万人。観光庁の推計では、その消費額は約4.8兆円に上る。だが、水際対策を徹底した21年の入国者数はわずか25万人に落ち込んだ。岸田首相は10月28日の観光立国推進閣僚会議で、「インバウンド(訪日外国人)消費5兆円超の速やかな達成を目指す」と言い切った。

ただ、観光業の完全復活には、中国のゼロコロナ政策見直しが必要になるという難題もある。19年の訪日外国人の4割弱を占めた韓国と香港の来日客が回復しないためだ。そのため、コロナ禍前の状況に戻るのには、早くとも24年ごろとの見方も少なくない。それでも3年近くコロナ禍で苦しんだ日本経済は今、ウィズコロナに向かう歩みを次第に速めている。